きずな

発行：観音寺市民生委員児童委員協議会　会長：石川　豊　住所：観音寺市坂本町一丁目1番6号

コロナ禍における民生委員・児童委員活動

観音寺市民生委員児童委員協議会
会長　石　川　豊

令和二年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、経済状況の悪化、長引く自粛生活でのコミュニケーションの減少に伴う社会的孤立や児童虐待、DVなど、地域における福祉課題、住民の生活課題が多様化、複雑化しています。

このような中、私たち民生委員・児童委員は、一人暮らしの方、高齢者世帯、障がいがある方、ひきこもりがちな方、ひとり親や子育てに悩みがある家庭など、地域の中で支えが必要な方々の生活に寄り添いながら活動を続けています。

しかしながら、コロナ禍における見守り活動やいきいきサロン、地域行事など、これまでどおりの民生委員・児童委員活動を行うことが難しい状況が続いています。委員の皆さまにおかれましては、まず、ご自身の健康や安全を優先して過ごしていただくことをお願いいたします。現在、ワクチン接種が進むなど、私たちを取り巻く環境が少しずつ変わりつつあります。そうした中で、「誰もが笑顔で安心して暮らせる地域づくり」に向けて、市や社会福祉協議会、関係機関との連携のもと、感染対策を十分に行い、工夫しながら民生委員・児童委員活動、地区民児協活動に引き続きご協力くださいますようお願い申しあげます。

民生委員になっての出会い

　定年退職後、地域のために何かできることがあればやってみたい、そう思っていたところに民生委員の依頼があり、喜んで引き受けさせていただきました。民生委員の活動を始めて一年半余りになりますが、おかげで多くの方に出会うことができ、自分にとって生活が豊かになっていることに、ありがたさを感じています。

　活動を始めた当初、一人暮らしの高齢者にお寿司を食べていただこうとお寿司作りの活動に参加しました。民生委員や主任児童委員、福祉委員、さらにはそれ以外のボランティアの方などが一緒に会話を交わしながら楽しく活動したのを思い出します。そしてそのお寿司を「おいしいから楽しみにしとんで」と喜んで受け取っていただいた方の笑顔も心に残っています。

　また、高齢者施設への訪問では、皆の前で歌を歌ったり、ジェスチャーをしたりと慣れないことへの戸惑いもありましたが、ここでも多くの方々との出会いがあり、一緒に活動できた喜びがありました。そして、帰るときには入所者の方と握手をして別れ、心を通わせ元気をいただきました。

　さらに、地域でもこれまでは近い世代の人のことしか知らなかったのですが、民生委員になって広い年齢層の方々と知り合うことができました。民生委員を過去に経験した方や福祉委員の方、高齢者の方などです。民生委員としての活動には限度があり、そのことに悩むことはありますが、顔を合わせば挨拶を交わしたり、時には健康面の話をしたり、それだけでも新鮮な気持ちになれます。中には野菜を交換したりする人もでき、人とのつながりが広がっています。以前より地域の一員という自覚ができてきました。

　今、コロナ禍で大変な時世になり、民生委員の活動も思うようにできないことが残念です。それでも見守りや野外でのボランティア活動など、できることに取り組みながら、また以前のように活動できる日が来ることを望んでいます。そして、人との出会いや交流を大切にする気持ちを持って活動して行きたいと考えています。

あっと言う間の一年！

「退職したら、民生委員たのむで―。」と自治会長からお願いされていました。そして退職を機に、約一年前「民生委員」として活動を始めました。ボランティア活動の延長だろうと軽く考えていましたが、違いました。厚生労働大臣から委嘱された「非常勤の特別職の地方公務員」であること。新人研修では、地域住民の身近な相談相手や行政支援のつなぎ役等々の役割があることを知り、私には責任が重すぎると後悔しました。

　不安でいっぱいでしたが、自分のできることから始めようと、前任者から引継いだ一人暮らし高齢者等を毎月二回以上訪問することにし、「生活で困ったことはないか？」と必ず伺うようにしました。また、地域行事にもできるだけ参加し、顔見知りを増やすよう心掛けました。

　民生委員の活動は大変ですが、うれしいこともありました。ある方が困り事を話してくれました。私では解決できなかったので、社会福祉協議会の方に相談したところ、アドバイスをいただき、市の担当課を紹介してくれました。そして、早急な対応により困りごとを解決することができました。また、ある時「垣根の一部が壊れているが、高齢で修理できない。」と伺いました。壊れた箇所を確認すると、私でも修理できそうでした。後日三十分ほどで修理でき、喜んでいただけました。

　自分のできることから始めた活動でしたがあっと言う間に一年が過ぎました。まだ一年程の経験しかありません。コロナ禍でいろいろと大変ですが、これからも悩みながらの活動になると思います。困った時は、社会福祉協議会の方に相談したり、先輩民生委員の皆さんに助言をいただいたりしながら、地域の皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思っています。

民生委員・児童委員として思うこと

民生委員・児童委員となって今年一期目の二年目を迎えました。今自治会長が自宅へ同級生を伴い、「他に引き受けてくれる人がいないので、一期だけでもやってもらえないか。」と熱心に要請されました。会社を退職するまで単身生活を十七年間送っていたこともあり、日頃から随分両親や家族は地元の方々に何かとお世話になっていました。この機会に微力ながら地域に少しでもお役に立てればと中身も理解することなく安請け合いして引き受けました。

民生委員・児童委員を委嘱されて、各種研修会や総会、地区民生委員・主任児童委員定例会等々に参加して多くの方々にご指導やご教示をいただき、民生委員・児童委員が何たるかも知らずに引き受けたことを時間が経つにつれ恥ずかしい思いがしてきました。一人暮らし高齢者・高齢者世帯の訪問、見守り活動や地区行事への参加、共同募金活動、また、地区社会福祉協議会の会員としての交通安全指導など幅広い活動とその使命に驚かされました。

そのような中、コロナ禍が活動の幅や量を狭めてきました。今は自分ができることを取りあえず少しでもやっていくことにしています。週一回の一人暮らし高齢者の見守りや声掛け「〇〇さん、コロナでどこも行けんなー。」「東京の息子夫婦ももう一年以上も帰ってこられん。」「寂しいけどワクチン接種がもうすぐ始まると言うとるから直接会える日まで健康で頑張ってな。」そんな会話が日常になっています。

今や新型コロナウイルスは変異して感染力がより強力なものになってきています。そして、新型コロナウイルスは私たちの社会生活まで大きく変化させました。特に一人暮らし高齢者や高齢者世帯の日常生活が非常に不便になり精神的にも負担が増えています。また、一部には経済的に厳しい状況が生まれてくるなど影響が出始めています。

民生委員・児童委員の仕事は『つなぐこと』と最初に教わったが、ここ最近特に実感するようになりました。コロナ禍で先行きが不透明な現在、高齢者などは将来について不安感や閉塞感、焦燥感を少なからず感じながら日々の生活を送っています。公助、共助、自助といわれますが、国や県・市の行政や福祉関係、学校関係者の目が届かない隙間を埋める活動、つなぐことが少しでもできたらいいなと思っています。そして、先輩から引き継いだ民生委員・児童委員の役割をこれからも少しでも自分なりに地域で果たして行きたいと思います。

思いっきり話がしたい

民生委員・児童委員を引き受けて一年半、任期の半分が過ぎようとしている。これまで一体何ができたのだろうか。コロナ禍で思うような活動ができず、研修も満足に受けられない。事務的な仕事を何とかこなしているというのが実感だ。

高齢者の方はどうだろう。地域の集まり、イベントはなくなり、少人数での会合すら中止の連続だ。人の集まる機会が失われ、人と顔を合わせて話をすることがめっきり減ってきている。外を歩いていても、人と出会うことも少なく、立ち話をしている姿もあまり見かけない。

私自身、友だちともっと自由に会って話がしたいと願う毎日だ。いろいろな人の笑顔が見たい。お互いうなずき合って話がしたい。大声で笑いたい。それでストレスも発散され、満足して一日が終わる。大げさかもしれないが、誰かと話をし、うなずき合うことで自分の存在が認められた様な気になる。そして安心する。そんなところにも地域としての役割があるのではないだろうか。

高齢者世帯、一人暮らし高齢者の方はなおさら、地域の人と話し合うことが必要なのではないだろうか。それなのに今、民生委員として訪問するのもはばかられ、電話で現状確認、またマスクをして短時間での訪問だけで、あわてて退散する。何か中途半端で、達成感、満足感が湧いてこない。

今、コロナワクチン接種が進められているが、いつになったら以前のように気兼ねなく思いっきり話ができるのだろうか。大声で笑える日が来るのだろうか。若い人はもちろん、私自身も含め高齢者にこそ、早くそんな日常が戻って欲しい。切に願う今日この頃である。

主任児童委員になって

主任児童委員として二年目が始まりました。民生委員・児童委員と主任児童委員の違いも分からず始まった主任児童委員でしたが、毎月、主任児童委員部会での定例会があり、そこでの情報交換や、研修会に出席して、勉強させてもらいました。令和二年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を受けて、ほとんどの活動が中止となりました。活動がどのようなものかよくわからないままの最初の一年だったように思います。活動と言えば、コロナ対策として、主任児童委員部会でマスクを皆で作り、観音寺市内の保育所やこども園に届けたこととか、また、子育て支援では、赤ちゃんの家庭訪問をして、赤ちゃんおめでとうメッセージを届けました。

それから、担当地域に住む一人暮らしの男性と連絡が取れないので確認してほしいと、遠来の親戚から連絡があり、市社会福祉協議会や駐在さんと相談の上、家の中まで確認するということがありました。育成会への協力としては、親子雲辺寺登山が毎年ありますが、コロナのため中止になりました。その代わりに、小学校の校歌に出てくる菩提山登山が組まれまして、五・六年生と共に菩提山登山に参加しました。ボランティアの会への協力としては、給食サービスを年二回、赤飯とちらし寿司を高齢者にお届けしました。

子ども達とのふれ合いと言えば、主任児童委員を引き受ける前から活動していました安全・安心パトロールで、毎朝、地域の子ども達と、集合場所から、小学校まで、一緒に歩いて登校しています。夕方は、青色防犯パトロールに参加して校区内を巡回しております。子ども達と接していますと、皆それぞれに個性を持っていて、その個性を大切にしてほしいものだと願っております。

主任児童委員って何ですか？

主任児童委員って何ですか？とそう思われる方がまだまだ多い気がします。そんな実感を持ちながら私たち主任児童委員は、「子どもの民生委員」として活動をしています。

ときどきテレビ等のニュースで伝わる児童虐待、子どもの貧困、ヤングケアラーの問題等、もう少し地域で関わることができたらニュースになるような悲劇的なことにはならなかったのではないか？そんな感想を持つことは多いです。さまざまな家庭の問題に関わる時、本当に現代の子育ては、複雑で難しいことを痛感します。

私たちに出来ることは一体何なのだろう？そんなことを考えます。私たち一人一人のできることは小さいけれど、そこで助けを求めるお手伝いをしていくことが私たちの活動なのではないかと思います。

助けを求めればその助けになる制度が全てに整っているわけでもないけれど、一人で悩んでいるよりも一緒に考える人が多い方が解決の糸口は見つかりやすいです。その糸口を一緒に見つける人にこんな私だけど、なれたら良いなと思っています。

そして、それぞれの家庭が皆一生懸命に生きているということ、まずはそこをしっかりと受けとめたいと思います。

コロナ禍で人とのつながりが難しく感じる今日この頃ですが、それでも笑顔で元気な子どもたちを見かけると気持ちも軽くなります。人の笑顔は周りの人を幸せな気持ちにしてくれます。

歴史にも残るであろうコロナ禍という時代は、まだしばらく続きそうです。少しでも多くの人が、この苦しい時代でも笑顔を見つけられるお手伝いができれば、それは私にとっても、うれしいことではないかと感じています。

いつかまた

皆さん、この一年間どのように過ごされてきましたか。春には花見、ゴールデンウイークにはお出かけ、夏には海水浴やバーベキュー、秋には旅行、お正月やお盆には親戚が集まり、にぎやかに仲間と飲食をしながら笑いあっていたあの日、これまであたり前のように過ごしていた生活から一転して我慢の日々が続いています。いつまでこのような生活が続くのでしょうか。何を基準に自粛が解消されるのか分からないまま一日が終わっていきます。

私は、主任児童委員として八年目を迎えております。一年間の行事がほとんど無くなり、子どもたちと接する活動はほぼ無くなってしまいました。学校への訪問も減りました。ワクチン接種が進んでいますが、生活様式は以前のようには戻らないでしょう。不要不急の外出を避け、人との間隔を保ち接触せずに会話を控えるというこのような状況が続いていくと、人間関係がさらに希薄になると思われます。

昨年、ある養護学校へお邪魔する機会がありました。毎年子どもたちとのふれあい活動で訪れる学校です。一人ひとりの感染対策による生活様式は変わっていますが、先生と児童を見ていても接し方は何も変わっていません。以前と同じように近くで楽しそうに活動をしています。私たちとの接し方も変わりません。変わりようがないですよ。先生や児童が間隔を保ち、真正面での会話を避けるのは無理なことです。同じようなことは介護や指圧、美容業等、多くの業種であります。人と人が接触しないとできないようなことはたくさんあります。

これからは、自分が置かれている状況を踏まえて感染防止対策をしながら一人ひとりが自覚をもって行動することによって、明るい世界が見えてくるはずです。力を合わせて、この新型コロナウイルスに打ち勝とうではありませんか。

全ての人に制限がなく自由に行動ができる安全で安心な世の中になり、いつかまた以前のような生活に戻ることを願うばかりです。

見守り活動の日

今日は、一人暮らし高齢者宅訪問の日。

今回はGさんから訪問しよう。どんな話題で話をしようかな。…そうだ、先日電動シニアカートを運転していたので、そのことについて話を進めよう。

「おはようございます。」…Gさん、安全運転を心がけていてくれて安心した。

次は、Nさん。

天気がいいので畑仕事をしているかも。自宅近くの畑に向かう。居た。「おはようございます。何を植えよんですか？」Nさん、手を止めニコニコして話をしてくれ、元気そうで安心した。

さて、次はFさん。

「おはようございます。」…返事がない。「Fさーん、民生委員の〇〇でーす。」

…やはり返事がない。Fさんは、三回に一回程度こんなことがある。

ご近所に、日常的にFさんのお世話をしている姪御さんが居るのでその方のお宅へ向かう。

「Fさんに声をかけたのですが返事がないんです。お変わりないですか？」

「いつもありがとうございます。変わりないですよ。たぶん寝てるんだと思います。〇〇さんが来てくれたことを伝えておきます。」安心するとともに、次はお会いできることを願い、次のTさん宅へ。

Tさんは、訪問している方の中で最年長者である。

「おはようございます。」

「はぁーい。」女性の声で返事があった。隣町に住む娘さんが今日も来て洗濯物を干していたようだ。

Tさん宅は私の家から近く、娘さんは子どもの頃から知っているので気軽に話ができる。

娘さんがTさんを呼んできてくれた。「〇〇ちゃん、いつもありがとな。」還暦をとうに過ぎている私も、ご近所のおじさんにかかると「ちゃん」付けである。娘さんからもお礼を言われ、また来ることを伝え次の訪問先へ向かう。

これからも、担当地区の皆さんにとって、より身近な相談相手となる委員を目指し活動を続けたい。

地域で共に暮らせることを願って

結婚を機に実家を離れて約四十年が経ちましたが、縁あって生まれ育ったこの地区でまた暮らすことになりました。長年勤めた仕事を退職し、これからは今までできなかったことから始めよう、自分の生きがいづくりを見つけようと思っていたところに、自治会長から「民生委員・児童委員を引き受けてほしい。」と声を掛けられました。

親の看護を終えていたこともあって、これから先は共に暮らしていく自分の地区で、何か役に立つことができるのであればと思い引き受けました。しかし、生まれ育った地区とはいえ、顔見知りは近所の人に限られており、とりわけ隣の地区となると全く分からないところからの出発でした。

幹線道路から一歩入るとびっくりするほど空き家が多くあり、子どもの遊ぶ姿はなく、少子高齢化社会という現実が如実に現れています。それでも一人暮らし高齢者の方々が一生懸命に頑張って生活をしている姿を垣間見ることができました。

「こんにちは」と家を訪問し、声掛けから始まった見守り活動を続けていくうちに、初めはぎこちなかったお互いの関係も少しずつ打ち解けて、私の人となりを覚えて下さるようになりました。

民生委員・児童委員の活動が始まって間もなく新型コロナウイルス感染が拡がり、今もなおコロナ禍は収束のきざしが見えない状況が続いています。感染予防に気を遣いながらの訪問ですが、顔を見て「お変わりないですか」「いつもありがとう」との返事と笑顔をもらうと心が和む日々です。

共に「支え、支えられ」という地域の絆やふれあいを大切にして、これからも笑顔で声掛けをしていこうと思っています。

『民生委員・児童委員の日』活動紹介

小学校の給食の配膳に役立つようポリ手袋の贈呈と、PRちらしを配布しました。

集団下校の小学生と一緒に歩いて危険箇所の点検を行いました。

小学校の卒業式でボールペンの贈呈と、PRちらしを配布しました。

子ども向けフリーペーパー『みんせい！』

幼稚園で園児と保護者にPRちらしと折り紙を渡しました。

公民館でPRちらしとバッグを渡しました。

小学校の全校集会でCDプレーヤーの贈呈と、PRちらしを配布しました。

編集後記

今年も会報紙「きずな」第9号を発行できる運びとなりました。原稿をお寄せいただきました皆様ありがとうございました。

令和三年も半年が過ぎ、新型コロナウイルスの収束も見えず変異種が拡大傾向にあり、不安な日々を過ごされているのではと推察いたします。

先ずは御身を守り、自己免疫力を向上させるよう努め、絶たれようとしている「きずな」を見つめ直すきっかけにして欲しいと思います。

今後とも、民生委員・児童委員の活動にご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集後記 秋山 治司
表紙題字 冨原 一郎
表紙スケッチ画 高橋 康員